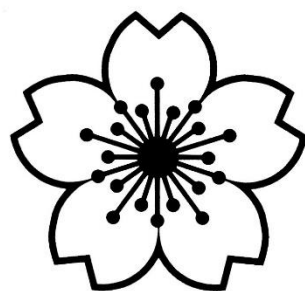


体験授業

令和3年3月27日(土)



**大学の講義を体験できるチャンス！
ぜひ聴いてみて下さい。**

跡見学園女子大学

文学部

<p>人文学科</p> <p>11:35~12:05 3号館2階3256教室</p>	<p>日記にみる日本の近代議会 准教授 真辺 美佐</p> <p>歴史を読み解く材料(史料)としての「日記」に着目する。日本最初の公式使節としてアメリカに渡った外国奉行の村垣範正、女性の民権運動家として知られる岸田俊子の日記を題材に、かれらの目に近代議会がどのように映ったのか、そこから時代のどのような側面を読み解けるのかを、受講者のみなさんと一緒に考えていきたい。史料を読む楽しさを少しでも体感してもらえれば幸いである。</p>
<p>現代文化表現学科</p> <p>10:45~11:15 3号館2階3256教室</p>	<p>作品の、好き・嫌いではなく・・・ 教授 副島 善道</p> <p>現代文化表現学科が扱う研究対象は学生個々が興味を寄せる作品です。この興味の広さと深さと「研究」とは、いったいどうやって結びつくのでしょうか。大好きな作品について「研究発表」をするというのは、それがステキとかカッコいいとか、私が好きだとか、そういう個人の感想を述べるのとは違います。ではいったいどんな方法が？現代文化表現学科の1年次4月からの講義(必修授業)で学生さん全員はこの手がかりを学びますので、今回はその一端をご紹介します。</p>
<p>コミュニケーション文化学科</p> <p>13:10~13:40 3号館2階3256教室</p>	<p>英国入門: England, Great Britain, The UK - なぜこんなにたくさん名前があるの? 助教 マクラウド・コリン</p> <p>イギリスは小さな国ですが、たくさん名前があります。イギリス人でも時々混乱します。この体験授業では、なぜイギリスにさまざまな名前があるのかを説明します。地理、政治、歴史について話します。また、イギリスの国々の違いの例を説明します。 学生はCLILレッスンも体験します。CLILとは内容言語統合型学習という意味です。CLILレッスンでは、先生は英語を使ってトピックを教えます。学生は自然に文法や語彙を学ぶことができます。</p>



マネジメント学部

マネジメント学科 10:45~11:15 3号館1階3156教室	ディズニーランドのリスクマネジメント 教授 山澤 成康
	<p>「マネジメント」とは管理するという意味ですが、企業にとって災害や感染症といったリスクへのマネジメントは重要です。</p> <p>東日本大震災時には、ディズニーランドのゲストへの対応が評価され、2012年度は過去最高の入園者を記録しました。</p> <p>2020年には新型コロナウイルスの感染が広がりましたが、ディズニーランドはどのように対応してきたのでしょうか。売上高などの財務指標、株価などの金融指標も参考にしながら、解説していきます。</p>

生活環境マネジメント学科 13:10~13:40 3号館1階3156教室	「持続可能な生活のためには」 教授 宮崎 正浩
	<p>グリーンランドでは大量の氷が溶けて川になっています。世界各地で巨大なハリケーンや森林火災が起きています。熱帯林は大規模に伐採され、多くの生物が絶滅の危機に瀕しています。新型コロナウイルスによる感染拡大も元をたどれば自然破壊が原因です。これらは、人類による消費生活や経済活動が地球の限界を超えているために起きています。では、私たちが地球の限界の中で持続可能な生活を送るためには、どうしたらよいのでしょうか？この授業ではそのためのヒントを明かにします。</p>

観光コミュニティ学部

観光デザイン学科 13:55~14:25 3号館1階3155教室	「観光学」の視点から銀座の街をながめてみよう 講師 小関 孝子
	<p>観光学の視点というのは、観光客の視点という意味ではありません。銀座を事例に、観光的な街の見方について考えてみましょう。銀座に行ったことがない人も、きっと銀座に対して何らかのイメージを持っているはずです。大人の街だとか、高級そうだとか、そんなイメージでしょうか。ではそのイメージはどのように形成されていったのでしょうか。銀座に地方各県のアンテナショップが集まっているのはなぜでしょうか。観光学の視点で物事を複眼的・多面的に捉えられるようになると思考の幅が格段に広がります。ぜひそれを実感してください。</p>

コミュニティデザイン学科 12:20~12:50 3号館1階3155教室	地域とタコから考える「えす・でいー・じー・ず」 助教 新垣 夢乃
	<p>「SDGs」。なんだか新しい言葉で、とても良い目標のように感じるのではないのでしょうか。でも、このような言葉に頼らなくても、日本の地域ではSDGs的な実践が昔から行われてきました。そこでの経験は、きれいごとばかりではなく、生活のために試行錯誤するなかで生み出されてきたものです。ですが、その古臭く生々しい経験のなかには、SDGsを実践していくための問題やヒントがあります。</p> <p>今回は、それをある地域のタコとの関係から考えてみましょう。そこから、外来語で流行り言葉のSDGsを、私たち自身の身についた言葉とすべく試みてみましょう。</p>

心理学部

臨床心理学科 10:45~11:15 3号館1階3155教室	「聴く」が持つ不思議な力 教授 宮崎 圭子
	<p>「聴く」が持っている力とは？ 実は、我々臨床家(カウンセラー)にとってこの「聴く」は基本中の基本として、繰り返し説かれます。そして、我々臨床家達は日々の実践の中で「聴く」ことに集中します。では、「聴く」にはどのような臨床的な力があるのでしょうか？ 授業ではそれをレクチャーします。「聴く」に関して、非常に著名な作家が文学作品の一つにしています。それも味わってもらいます。臨床心理学ワールドを少し理解できるでしょう。お楽しみあれ！</p>